

第4回 志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本計画策定検討委員会
【議事概要】

【開催日時】

令和3年4月23日（金） 19:00～20:40

【開催場所】

いろは遊学館 3階 第1研修室

【配布資料】

- 次第
- 第3回議事概要
- 資料1 第4回志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本計画策定検討委員会資料
- 資料2 志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本計画策定検討委員会
～今後のスケジュール～

【議事概要】

(1) 市民会館・市民体育館複合施設に求められる機能と配慮事項

(2) 各機能の施設計画

■事務局より、市民会館・市民体育館複合施設に求められる機能と配慮事項及びホール機能として備える内容について説明し、検討を行った。

○主な意見

- ・市民会館や市民体育館の利用者以外の市民も訪れる施設とすることで、両者の交流によるまちづくりが期待できる。
- ・例えば、スポーツを目的に訪れた人が、同じ施設で開催されている美術展に立ち寄り、新たな交流が生まれるといったことが、複合施設にする意味であると思う。
- ・部屋を借りなくても、簡単な打合せができるようなスペースがあればよい。
- ・志木市の特産品等が手に入る、認識できる場所があれば交流の場になるとともに、新しく志木市に来る人の情報源になるのではないか。
- ・ホワイエの使い方として、展示スペースや、舞台を画面で映し出すなどの活用ができるとよい。ホールを使用していない場合にも多様な用途に活用することで、スペースを無駄なく利用できるとともに、市民の交流も生まれるのではないか。
- ・日常的な利用と非日常的な利用の2つに分けて考え、部屋の開放や無料休憩スペースとして活用するなど、運用上の工夫をしたほうが良い。
- ・楽屋については、ホールとは別の入口があることや様々な用途に活用できること、また演者に「このホールの楽屋は広くてきれい」と思ってもらえると良い。
- ・楽屋やリハーサル室などを、多くの市民が教室等として活用できるとよいが、ホール利用時については、関係者以外は立ち入りが出来ないシステムにする必要がある。
- ・日常と非日常のどちらも有効活用するための提案と、ホール利用時のプライベートな空間の確保を設計条件にすれば良いと考える。
- ・カフェや地域の障がい者雇用のレストランの立地、また駐車場をキッチンカーのスペー

スとして活用することで、さまざまな人が来るのではないか。

- ・Wi-Fi等のインターネット環境を整えたほうがよい。
- ・定期的な出店があるミニ広場や、ホワイエでの写真や絵の展示があれば、人が集まり、気楽に立ち寄ってもらえるのではないか。
- ・小学生や中学生たちと交流できるような場所ができてほしい。

■事務局より、体育機能として備える内容について説明し、検討を行った。

○主な意見

- ・今回計画している複合施設に全ての機能を入れることは難しいと考える。可能なものについてはフォーシーズンズ志木8階へ移設したほうが良いのではないか。
- ・民間企業が参入しやすいトレーニングルームやエクササイズルームは市内でも増えており、必要性は低いのでは。逆に、武道場は公共で整備する必要があるのでは。
- ・民間施設は会費が高額であるため、気軽に利用できる施設として公設も残してほしい。
- ・施設のスペースは限られているため、どこかの段階で優先順位を付けることが必要。
- ・需要と供給の問題があるが、剣道場・柔道場について、武道館へ統一しても良いのではないか。利用が少ない施設は必要性が低く、利用が多い施設を継続してほしい。
- ・武道場の武道館への統一は面積の問題から難しい。新しい体育館に武道館機能を全て移設することはどうか。卓球場やアリーナで行うバドミントン、トレーニングルームは利用頻度が高い。対象者を想定しながら民間と住み分けができると良い。
- ・体育館機能は、ダンスが体育として認識されるようになったように、時代の変化にあわせ、既存のものにとられることなく柔軟に考えることが必要。
- ・剣道場は、現状の面積でも稽古は問題ないが、正式な試合の規定を満たしていない。剣道場と柔道場の併設は、柔道場のスペースを借りて正式な試合の幅が取れるのであれば問題ない。ただし、畳の上げ下ろしの作業が発生する点は気がかりである。
- ・剣道場は、フォークダンスや保育園の遊び場としても利用されている。
- ・柔道場や剣道場は、折りたためる畳など新しい技術・製品を活用し、多目的に利用することで魅力の向上につながるが、使い方のルールの周知も大切である。
- ・和光市の柔剣道場は剣道利用の際には畳を全て外している。また、フォークダンス等の利用で室内履きを履くことはやむを得ないと思う。
- ・現在の観客席は狭く利用しづらいため、他市のデザインや考え方を参考にするとともに、利用されない時の活用方法の検討も必要。
- ・ボルダリングなど、新しい体育、レクリエーションとして時代の変化に対応できるスペースをとっておくことも考えられる。
- ・交流の観点から、絵画の見学など別の用件で来た人が体育館に立ち寄ることにより、興味を持ってもらえるような工夫が必要。
- ・健常者だけでなく障がい者もスポーツを楽しめるよう、体育館や多目的ルーム等にバリアフリーにも気を配ることが必要。
- ・トレーニングルームは、健康維持や筋力アップなど、利用者によってその目的が異なることを考慮する必要がある。